郷土摂津 いにしえ通信

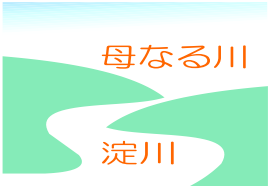
第５０号　平成１４年６月１日

発行　摂津市教育委員会　生涯学習部生涯学習課

〒５６６－８５５５　摂津市三島一丁目１－１

℡（０６）６３８３－１１１１　℡（０７２６）３８－０００７

ホームページアドレス　http://www.city.settsu.osaka.jp/

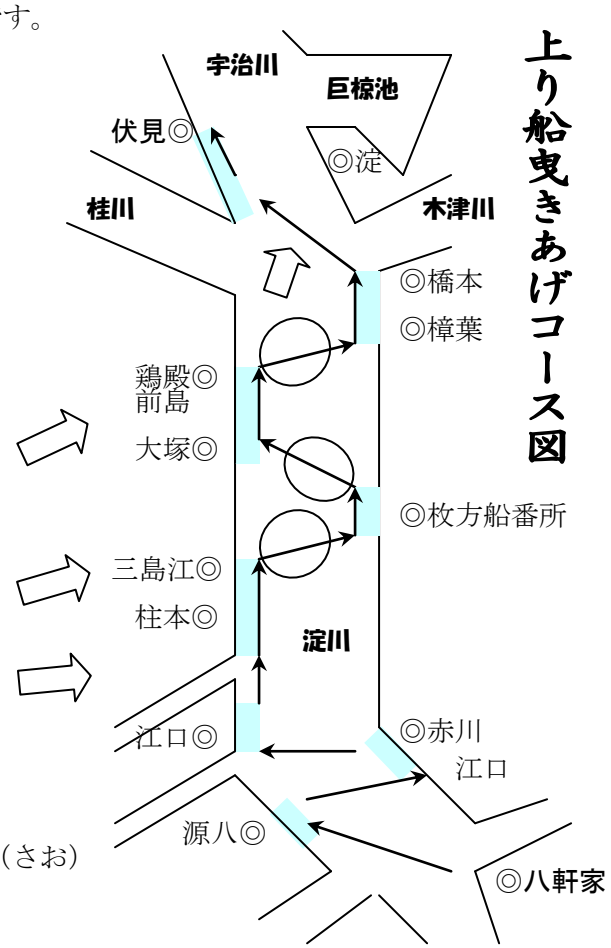


第３回 過書船（三十石船他）２

シリーズ！ 淀川を往来した船

上り船曳きあげ　三十石船の上りは早朝に大坂天満の八軒家を出発して、約 12 時間で伏見に着くのが基本でした。下りは、夜に伏見を出発して、朝早くに八軒家につきました。主に夜運航したので夜船と呼ばれました。上りは、時速約５キロで、人が歩く程度の速度でした。下りは、時速約 10 キロぐらいでした。下りは、川の流れにまかせましたが、上りは、岸に上がった船頭と岸にいる船引き人足が引いてあがりました。引くコースは、川の流れ方を基本にして、右岸や左岸に沿って引き上げたそうです。

曳き上げは重労働　それぞれの箇処で引き人がいて、そこの区間だけを分担して引き上げました。岸にあがって船を曳く姿は「百夫、索を牽き、魚貫の如し」で、ワラに目のところをつきぬかれためざし魚のようにいわれて同情されました。冬でも裸で玉の汗を流しました。夏の夜は蚊にせめられ、冬の夜は霜を踏み、氷をくだいてはげましながら働きました。三十石船の中央に立てた柱からロープをのばして、岸にあがって曳きあげました。船の先からロープで曳くと船が岸に着いてしまうからです。また、橋の下をくぐる時、橋けたにぶつけると船が砕けてしまいますので苦労したそうです。河中では帆をあげてのぼることもありました。



曳き場（犬走り）

西風（帆がきく）

浅瀬で棹（さお）がさせる

平成14年度・ふるさと摂津講座

摂津市域の歴史を学ぶ講座です。摂津市にゆかりのあるテーマを選択し、摂津市文化財保護審議会委員、市民の方々など多彩な講師をお招きします。

【 期　間 】 平成 14 年６月から平成 15 年３月まで（全 10 回）
【 時　間 】 午後２時から４時まで
【 会　場 】 摂津市総合福祉会館　第１会議室他
【 受講料 】 無　料
【 定　員 】 100 名
【 対　象 】 歴史に関心のある方
【 講　師 】 摂津市文化財保護審議会委員　市民講師　市職員
【 申込み 】 生涯学習課へ（電話可）６月３日（月）から受付開始

講座スケジュール

開催日	内　容	講　師	会　場
６月 19 日（水）	鳥飼の水害と暮らし	小林　貞夫	総合福祉会館第１会議室
７月 18 日（木）	金剛院	安永　木世香	金剛院内
８月 21 日（水）	中世の町と摂津	茗荷　充幸	総合福祉会館第１会議室
９月 18 日（水）	摂津市のおいたち	橋本　秋作	総合福祉会館第１会議室
10 月 16 日（水）	亀岡街道	吉谷　敏子	相川から千里丘
11 月 20 日（水）	味舌藩と味舌天満宮	範国　忠士	正雀から千里丘
12 月 18 日（水）	古代の道と摂津	伊部　貴雄	総合福祉会館第１会議室
１月 15 日（水）	紫金山と吹田博物館	博物館学芸員	吹田市立博物館他
２月 19 日（水）	悪党と摂津	神谷　令美	総合福祉会館第１会議室
３月 19 日（水）	歴史散策（味舌地区）	市民講師	三島から千里丘

お問い合せ
生涯学習課　生涯学習推進係まで
TEL06（6383）1111・0726（38）0007

講座風景（写真は昨年度のふるさと摂津講座）
講座を受講された方が講師に挑戦！
あたたかい雰囲気にあふれた講座です。

郷土史コーナー

三宅（みやけ）の歴史

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

地名のいわれ

大和政権による全国支配が進むにしたがって、支配の仕組みが整備されていきます。その中のひとつに屯倉（みやけ）があります。屯倉とは、中央政府（朝廷）が直接支配する土地のことです。「ミ」は美称、「ヤケ」は公的な建物のことを指しますが、転じて朝廷の直轄地を意味するようになりました。各地に屯倉を設けることによって、朝廷の経済基盤を安定させ、同時に、そこを拠点として各地方を支配しようとしたものです。

日本書紀に、現在の三嶋地方の地方官（県主・あがたぬし）であった飯粒（いいぼ）という者が４０町の良田を朝廷に献上したという記述があります。これが竹村屯倉（たかふのみやけ）の起源です。

竹村屯倉の存在は事実だと思われますが、所在については、中世に三宅庄といわれた茨木市蔵垣内付近から摂津市北部の三宅地区をあて、ここが竹村屯倉の中心部だったのではないかという説があります。

他に茨木市の耳原・桑原付近とする説、『和名抄』の嶋上郡高上郷を高生（たかふ）郷の誤りとみてこれにあてる説があります。

屯倉は三宅・宮家・御宅などと表記されることもあります。このように「三宅」は古い歴史を持つ地名です。このような理由から、摂津地域の「三宅」は「屯倉」から来た地名だと考えられています。

三宅については、屯倉の旧地という説のほかに、支配者が渡来人の子孫であったという説が存在しています。『新撰姓氏録』（しんせんしょうじろく）摂津国皇別に「三宅人、大彦命の男、波多武日子（はたむひこ）命の後なり」とあり、同じく摂津国諸蕃に「三宅連、新羅国王子天日矛（あめのひほこ）命の後なり」とあります。

孝元天皇の皇子大彦命の子孫である三宅人と、渡来人の子孫である三宅連の二つの系列が支配者として考えられます。後者については、『古事記』（垂仁記）にも天日矛の子孫である多遅摩毛理（たじまもり）（『日本書紀』垂仁紀では田道間守）が三宅連の祖であると記しています。

これらの三宅という氏族のいずれかが、屯倉首などとして屯倉に住まいし、屯倉を管掌していたのであろうと考えられます。

ちなみに、中世当地の豪族三宅氏は、後世の所伝ではあるが『諸士系譜』（豊後岡藩中川家史料）によれば、藤原鎌足の孫房前（藤原北家）を出自として１４世紀末に三宅の地に移ったと伝えられています。

「摂津市史」・「摂津市域の歴史と昔の暮らし」より　　担当　（茗荷）

第15回 埋もれた摂津市の歴史

発掘調査で明らかになっていく摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介していきます。

平成12年度 蜂前寺跡 2次調査

蜂前寺跡2次調査についてまとめ　今回の発掘調査では、東西に流れる溝跡、総柱建物跡、庇（ひさし）付き掘立柱建物跡、土壙墓（どこうぼ）、井戸などの遺構や中世（おもに鎌倉時代）を中心とした土器などの遺物が見つかりました。遺構・遺物とも 12 世紀末から 14 世紀頃のものと思われます。Ⅰ区・Ⅱ区合わせて 200 ㎡という限られた範囲内でしたが、比較的密に遺構・遺物があり、多くの所見を得る事ができました。中世という時代は、うち続く戦乱の中にあっても、人々が水利技術、農業技術、手工業などを発展させ、自然条件を克服して生産を拡大していった時代でもあります。

このような歴史的背景を反映し市内でも、この時代の生活の痕跡が多く見られます。今回の蜂前寺跡２次調査をはじめ、蜂前寺跡１次調査では 14 世紀から 15 世紀にかけての瓦を含む東西の溝（38 号・42 号参照）が見つかりました。また、近接する庄屋１丁目を中心とした明和遺跡では鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物跡、戦国時代の大溝、各時代の土器、陶磁器が見つかっています。千里丘東遺跡からは 15 世紀前半頃の土師皿７枚を使用した地鎮遺構、土坑 13、落ち込みなどが見つかっています。

このように中世の時代になりますと、市域でも多くの人々が生活し、活気にあふれ、人々の往来もさかんになっていきます。その後、近世（江戸時代）になっても大坂城の周辺という政治的、経済的にも重要な位置であり、多くの人々の生活があったことでしょう。

また、今回の調査では中世以前のサヌカイトの破片・弥生土器片・古墳時代の須恵器・土師器などが溝の中から見つかっています。この事から当該地及び周辺地域に中世以前の生活の場があった可能性を残します。今回の中世の時代の遺構面は最近の整地層及び旧耕作土の直下で、最近の耕地化の際、溝を含め上部が削られていたようです。今後の周辺地域の調査に期待がもたれます。今回の調査は限られた範囲ということもあり、日本の歴史を書き替えるような内容ではありませんでしたが、しかし、摂津市及び千里丘地域の歴史を知る上では、大きな成果があったものと思われます。

担当　（伊部）

完掘状況断面図